

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of:

Kaoru SHIMAMURA

Serial No.: To be Assigned

Filed: March 16, 2001

)  
)  
)  
)  
)  
)

Group Art Unit: To be Assigned

Examiner: To be Assigned



For: **SYSTEM FOR SELLING GOODS**

**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR FOREIGN  
APPLICATION IN ACCORDANCE  
WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. §1.55**

*Assistant Commissioner for Patents  
Washington, D.C. 20231*

*Sir:*

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. §1.55, the applicant(s) submit(s) herewith a certified copy of the following foreign application:

Japanese Patent Application No. 2000-351776  
Filed: November 17, 2000

It is respectfully requested that the applicant(s) be given the benefit of the foreign filing date as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the requirements of 35 U.S.C. §119.

Respectfully submitted,

STAAS & HALSEY LLP

By: 

James D. Halsey, Jr.

Registration No. 22,729

700 11th Street, N.W., Ste. 500  
Washington, D.C. 20001

(202) 434-1500

Date: 3/14/01

日本国特許庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

#2  
11/18  
50101116

1c903 U.S. PTO

09/809109



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日

Date of Application:

2000年11月17日

出願番号

Application Number:

特願2000-351776

出願人

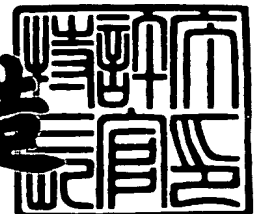
Applicant(s):

富士通株式会社

2001年 2月 9日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3006563

【書類名】 特許願

【整理番号】 0051209

【提出日】 平成12年11月17日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明の名称】 商品販売システム

【請求項の数】 10

【発明者】

    【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内

    【氏名】 島村 薫

【特許出願人】

    【識別番号】 000005223

    【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100089244

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 遠山 勉

【選任した代理人】

    【識別番号】 100090516

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 松倉 秀実

    【連絡先】 03-3669-6571

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 012092

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705606

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 商品販売システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ネットワークを通じて商品を販売するシステムであって、  
前記商品は、内容が相互に異なり単独でも販売される複数種類の構成要素からなり、

前記構成要素の種類数に応じた複数種類の構成要素の単価と、各単価の適用範囲とを記憶した単価記憶部と、

購入者から受信した単数又は複数の購入対象の構成要素の情報に基づいて、当該購入対象の構成要素の種類数を検出する検出部と、

検出された構成要素の種類数に基づいて前記購入対象の構成要素に適用される少なくとも 1 つの単価を前記単価記憶部から読み出す読出部と、

読み出された前記少なくとも 1 つの単価の適用範囲に属する構成要素の数を算出する第 1 算出部と、

前記読み出された前記少なくとも 1 つの単価と、算出された構成要素の数とを用いて前記購入価格を算出する第 2 算出部と、を備えた商品販売システム。

【請求項 2】 前記購入者によって過去に購入された構成要素の種類数を記憶する購入実績記憶部と、

前記検出部によって構成要素の種類数が検出された場合に、前記過去に購入された構成要素の種類数を前記購入実績記憶部から読み出し、前記検出された種類数に加算する加算部と、をさらに備え、

前記読出部は、前記加算部による加算結果を用いて前記購入対象の構成要素に適用される少なくとも 1 つの単価を前記単価記憶部から読み出す、請求項 1 記載の商品販売システム。

【請求項 3】 前記商品は、前記構成要素としてのデータの集合体であり、  
前記データの集合体を記憶したデータ記憶部と、  
記憶されたデータの集合体を用いて前記購入対象の構成要素の情報に対応するデータを含む納品ファイルを作成する納品ファイル作成部と、

作成された納品ファイルを前記購入者に納品する納品部と、をさらに備えた請

求項 1 又は 2 記載の商品販売システム。

【請求項 4】前記納品ファイル作成部は、前記購入者に過去に購入されたデータをさらに含む納品ファイルを作成する、請求項 3 記載の商品販売システム。

【請求項 5】ネットワークを通じて商品を販売するシステムであって、  
購入者による商品の購入実績を記憶する購入実績記憶部と、  
購入者から受信した購入対象の商品の購入価格を前記記憶部に記憶されている該購入者の購入実績に基づいて算出する算出部と、を備えた商品販売システム。

【請求項 6】購入者がネットワークを通じて商品を購入するためのシステムであって、前記商品は、内容が相互に異なり単独で販売される複数種類の構成要素からなり、

単数又は複数の購入対象の構成要素の情報を販売者に送信する送信部と、  
前記購入対象の構成要素の種類数に基づいて決定された少なくとも 1 つの構成要素の単価とその適用範囲とを用いて算出された当該購入対象の構成要素の価格を受信する受信部と、

受信された価格を表示装置に表示する表示制御部と、を備えた商品購入システム。

【請求項 7】ネットワークを通じて商品を販売する処理をコンピュータに実行させるプログラムを記録した記録媒体であって、前記商品は、内容が相互に異なり単独で販売される複数種類の構成要素からなり、

コンピュータに、  
前記構成要素の種類数に応じた複数種類の構成要素の単価と各単価の適用範囲とを単価記憶部に記憶するステップと、

購入者から受信した単数又は複数の購入対象の構成要素の情報に基づいて、当該購入対象の構成要素の種類数を検出するステップと、

検出された構成要素の種類数に基づいて、前記購入対象の構成要素に適用される少なくとも 1 つの単価を前記単価記憶部から読み出すステップと、

読み出された前記少なくとも 1 つの単価の適用範囲に属する構成要素の数を算出するステップと、

前記読み出された少なくとも 1 つの単価と、算出された構成要素の数とを用い

て前記購入価格を算出するステップと、を実行させるプログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体。

【請求項 8】 ネットワークを通じて商品を販売する処理をコンピュータに実行させるためのプログラムを記憶した記録媒体であって、

コンピュータに、

商品の購入者を識別するステップと、

前記購入者による商品の購入実績を取得するステップと、

前記購入者から受信した購入対象の商品の購入価格を前記購入実績に基づいて算出するステップと、

を実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体。

【請求項 9】 購入者がネットワークを通じて商品を購入するための処理をコンピュータに実行させるプログラムを記録した記録媒体であって、

前記商品は、内容が相互に異なり単独で販売される複数種類の構成要素からなり、コンピュータに、

単数又は複数の購入対象の構成要素の情報を販売者に送信するステップと、

前記購入対象の構成要素の種類数に基づいて決定された少なくとも 1 つの構成要素の単価とその適用範囲とを用いて算出された当該購入対象の構成要素の価格を受信するステップと、

受信された価格を表示装置に表示するステップと、

を実行させるプログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体。

【請求項 10】 ネットワークを通じて商品を販売する方法であって、

商品の購入者を識別し、

前記購入者による商品の購入実績を取得し、

前記購入者から受信した購入対象の商品の購入価格を前記購入実績に基づいて算出する、商品販売方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ネットワークを通じて商品を販売する商品販売システムに関する。



【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

WindowsやLinuxといったOSで使用されているフォント環境では、JISやUnicodeなどの決められた規格に従って作成された内字フォントと、ユーザーが独自にコードを定義する外字フォントがある。外字フォントは、OSで決められたコード範囲内であれば、外字フォントの文字コードの割り当てや収容する文字数を独自に決めることができる。

【 0 0 0 3 】

外字フォントの必要性は、システムを導入した後の初期段階で発生することが多い。もっとも、システムの運用の継続に伴って外字フォントの必要性が生じることもある。システムのユーザは、外字フォントが必要になった場合には、必要な外字フォントをその販売者から購入しなければならない。

【 0 0 0 4 】

従来、購入者が外字フォントを購入する場合には、販売者から購入者に外字フォントの1文字あたりの価格(単価)が提示され、提示した単価に購入者の購入予定の外字フォントの数(文字数)を乗じて購入価格が決められていた。

【 0 0 0 5 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記した従来の方法では以下の問題があった。即ち、購入者が購入する文字数が少ない場合には、購入価格はそれほど高価にはならない。しかしながら、購入者が多量の外字フォントを購入する場合には、購入価格が大きくなることから、購入者と販売者との間での価格決定交渉が発生し、交渉の結果売買が成立しないことがあった。

【 0 0 0 6 】

本発明の第1の目的は、購入者が購入し易い価格で商品を提供することができる商品販売システムを提供することである。

【 0 0 0 7 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上述した目的を達成するために以下の構成を採用する。

## 【0008】

即ち、本発明の第1の態様は、ネットワークを通じて商品を販売するシステムであって、前記商品は、内容が相互に異なり単独で販売される複数種類の構成要素からなり、前記構成要素の種類数に応じた複数種類の構成要素の単価と、各単価の適用範囲とを記憶した単価記憶部と、購入者から受信した単数又は複数の購入対象の構成要素の情報に基づいて、当該購入対象の構成要素の種類数を検出する検出部と、検出された構成要素の種類数に基づいて前記購入対象の構成要素に適用される少なくとも1つの単価を前記単価記憶部から読み出す読出部と、読み出された前記少なくとも1つの単価の適用範囲に属する構成要素の数を算出する第1算出部と、前記読み出された前記少なくとも1つの単価と、算出された構成要素の数とを用いて前記購入価格を算出する第2算出部と、を備える。

## 【0009】

本発明の第2の態様は、ネットワークを通じて商品を販売するシステムであって、購入者による商品の購入実績を記憶する購入実績記憶部と、購入者から受信した購入対象の商品の購入価格を前記記憶部に記憶されている該購入者の購入実績に基づいて算出する算出部と、を備える。

## 【0010】

第2の態様によれば、購入者により購入対象として指定される商品の販売価格(購入者の購入価格)を、購入者の過去の商品の購入実績に基づいて決定することができる。

## 【0011】

## 【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施形態を説明する。以下の実施形態は本発明の例示であり、本発明は実施形態に限定されない。

## 【0012】

## 〔第1実施形態〕

図1は、本発明の実施形態による商品販売システムの概要説明図である。図1に示すように、商品販売システムは、商品の購入者(注文者)によって使用される少なくとも1つの端末装置1と、商品データや購入者データ等を有するデータベ

ース 4 と接続された販売サーバ 3 と、端末装置 1 と販売サーバ 3 とを結ぶオンライン回線(ネットワーク) 2 とからなる。この例では、n 個の端末装置 1 が示されており、ネットワーク 2 としてインターネットが用いられている。

【 0 0 1 3 】

各端末装置 1 は、パーソナルコンピュータ(PC)、ワークステーション(WS)、モバイルコンピュータ等のコンピュータを用いて構成される。各端末装置 1 は、ネットワーク 2 に接続され、WWW(World Wide Web)などを用いて販売サーバ 2 から送られる各種の情報を Web ブラウザなどにより表示装置の画面に表示する。

【 0 0 1 4 】

販売サーバ 3 は、PC、WS、専用のサーバマシン等を用いて構成される。販売サーバ 3 は、商品販売に関する WWW サイト(「ホームページ」ともいう)を管理しており、WWW サイトにアクセスした端末装置 1 に対し、WWW サイトを通じて商品の販売情報を与える。また、販売サーバ 3 は、各端末装置 1 からの商品の注文を受け付ける。このとき、販売サーバ 3 は、注文者(購入者)の購入履歴と商品価格表から購入価格を算出する。

【 0 0 1 5 】

この例では、商品は、ユーザが独自にコードを定義することができる外字フォントセットであり、1 つのファイルに保管されている。販売サーバ 3 には、複数種類の外字フォントセットのファイル(以下、必要に応じて「商品ファイル」と表記する)が用意されている。各外字フォントセットのファイルは、複数種類の外字フォントのデータ(以下、必要に応じて「商品データ」と表記する)を含み、1 つのファイル中の各外字フォントは、他の外字フォントと相互に異なっている。各外字フォントが、本発明の商品、或いは商品の構成要素に相当する。

【 0 0 1 6 】

なお、本発明の第 1 の態様は、「商品」を「構成要素の集合体」と定義しているが、第 2 の態様では、「構成要素」自体が「商品」となる。即ち、本発明の商品は、「構成要素の集合体」と、「構成要素自体」(実施形態中のフォント(第 1 実施形態)、章単位 of データ(第 2 実施形態))とを含む。

## 【 0 0 1 7 】

購入者は、商品ファイル自体(外字フォントセット中の全ての外字フォント)を購入することができる。或いは、購入者は、外字フォントセットから1以上の外字フォントを選択して購入することもできる。即ち、購入者は、商品ファイル中の商品データをバラ売りで購入することができる。商品データがバラ売りされる場合、商品データは、その内容に拘わらず、同じ所定の単価で販売される。

## 【 0 0 1 8 】

図2は、図1に示した端末装置1の構成図である。図2において、端末装置1は、バスを通じて相互に接続された操作部5と、表示部6と、CPU(Central Processing Unit)7と、画面制御部8と、回線接続部9とを備えている。

## 【 0 0 1 9 】

操作部5は、キーボードや、マウス、ジョイスティック、フラットポイント、トラックボール等のポインティングデバイス等の入力装置を用いて構成される。操作部5は、ユーザが端末装置1を操作するためのコマンドやデータの入力に使用される。

## 【 0 0 2 0 】

表示部6は、陰極線管(CRT)、液晶ディスプレイ(LCD)、プラズマディスプレイ等を用いて構成された表示装置(ディスプレイ)であり、端末装置1における操作画面等を表示する。

## 【 0 0 2 1 】

CPU7は、端末装置1に接続された補助記憶装置(図示せず)に記憶された各種のプログラムをメモリ10にロードして実行することにより、画面制御部8及び回線接続部9を制御する。

## 【 0 0 2 2 】

画面制御部8は、販売サーバ3から送信される、WWWで用いられるHTML(Hypertext Markup Language)データのような操作画面情報を表示部6に表示したり、操作部5から入力されるコマンドやデータの制御を行う。画面制御部8が、本発明の送受信部、送信部、受信部、及び表示制御部に相当する。

## 【 0 0 2 3 】

回線接続部 9 は、端末装置 1 を回線(ネットワーク 2)に接続し、WWWで用いられる HTTP (Hypertext Transfer Protocol)や FTP (File Transfer Protocol)等の通信プロトコルを使用したデータの授受を可能とする。

【 0 0 2 4 】

メモリ 1 0 は、CPU 7 の作業領域や、表示部 6 に対する表示用データを保持するビデオメモリとして使用される。例えば、メモリ 1 0 は、表示部 6 に表示された操作画面を参照して操作部 5 から入力されたデータ等を一時保存する。

【 0 0 2 5 】

図 3 は、図 1 に示した販売サーバ 3 の構成図である。図 3 において、販売サーバ 3 は、バスを通じて相互に接続された操作部 1 1 と、表示部 1 2 と、データベース(DB) 4 と、補助記憶装置 2 1 と、メモリ 2 6 と、CPU 2 7 とを備えている。操作部 1 1 及び表示部 1 2 は、図 2 に示した操作部 5 及び表示部 6 とほぼ同じ構成を持つ。なお、販売サーバ 3 の操作部 1 1 及び表示部 1 2 は、後述するシステム構成に応じて本発明を実施する際の必須構成になるとは限らない。

【 0 0 2 6 】

DB 4 は、購入者情報テーブル 1 4 と、購入履歴テーブル 1 5 と、運減価格テーブル 1 6 と、商品データ購入履歴テーブル 1 7 と、納品情報テーブル 1 8 と、商品情報テーブル 1 9 とを保持する。

【 0 0 2 7 】

図 4 は、購入者情報テーブル 1 4 の説明図である。購入者情報テーブル 1 4 は、本商品販売システムを用いて商品を購入する購入者の情報(購入者情報)を保持する。購入者情報は、ログイン情報(アカウント情報)と、購入者の個人情報とからなる。ログイン情報は、販売サーバ 3 によって提供される WWW サイト(販売サイト)にログインするために必要な情報であり、例えば、購入者名(ユーザ名)、パスワードである。個人情報は、購入者のプロフィールに関する情報であり、例えば、購入者名、購入者の連絡先である。

【 0 0 2 8 】

図 4 に示す例では、購入者情報テーブル 1 4 は、購入者毎に購入者情報のレコードを保持している。各レコードは、要素として、購入者名、パスワード、電子

メールアドレス(E-mail)、電話番号、郵便番号及び住所を含んでいる。

【 0 0 2 9 】

図 5 は、購入履歴テーブル 1 5 の説明図である。購入履歴テーブル 1 5 は、購入者の購入実績を商品毎に格納することができる。購入実績(購入状況)は、購入者が過去に購入した商品中の構成要素数、即ち購入者が過去に購入した外字フォントセットに含まれた複数種類の外字フォントのうち、購入された外字フォントの種類の数(累積数)である。購入履歴テーブル 1 5 は、購入者及び商品名毎に管理された購入実績レコードを保存する。各購入実績レコードは、要素として、購入者名、商品名及び上記した購入実績を含んでいる。

【 0 0 3 0 】

図 6 は、通減価格テーブル 1 6 の説明図である。通減価格テーブル 1 6 は、購入者の購入実績に応じた外字フォントの 1 文字あたりの単価を定義した情報を保持する。即ち、通減価格テーブル 1 6 は、外字フォントの文字種類数の範囲に応じて定義された単価を保持する。

【 0 0 3 1 】

具体的には、購入者が購入した外字フォントの文字種類数(累積数)が 1 ～ 1 0 0 の範囲では、単価が 1 0 0 0 円で定義され、1 0 1 ～ 2 0 0 の範囲では、単価が 7 0 0 円で定義され、2 0 1 ～ 3 0 0 の範囲では、単価が 5 0 0 円で定義され、3 0 1 以上では、単価が 1 0 0 円で定義されている。

【 0 0 3 2 】

通減価格テーブル 1 6 が、本発明の単価記憶部に相当する。なお、本実施形態では、各商品(外字フォントセット)に対して同じ通減価格テーブル 1 6 を使用するように構成されているが、通減価格テーブル 1 6 が商品(外字フォントセット)毎に用意されるように構成しても良い。また、単価の適用範囲(単価帯)は、この例(4 つ)に限らず、適宜設定することができる。

【 0 0 3 3 】

図 7 は、商品データ購入履歴テーブル 1 7 の説明図である。商品データ購入履歴テーブル 1 7 は、購入者名及び商品名毎に作成される。商品データ購入履歴テーブル 1 7 は、特定の購入者による特定の商品中の各構成要素の購入実績の有無

を示す情報を保持する。

【0034】

具体的には、各商品データ購入履歴テーブル17は、商品(外字フォントセット)中の構成要素(外字フォント)の識別情報(識別コード)毎に、購入者の購入の有無を示す購入フラグを保持する。商品データ購入履歴テーブル17が本発明の購入実績記憶部に相当する。

【0035】

図9は、納品情報テーブル18の説明図である。納品情報テーブル18は、購入者及び商品毎に作成される少なくとも1つの納品情報レコードを保持する。納品情報レコードは、その要素として、購入者名と、商品名と、納品ファイルのファイル名と、購入価格と、代金の支払/未支払を示す支払フラグとを含む。納品ファイルは、購入者の注文に応じて納品される少なくとも1つの商品データを含むファイルである。

【0036】

図10は、商品情報テーブル19の説明図である。商品情報テーブル19は、販売サーバ3によって販売される商品の情報を保持する。即ち、商品情報テーブル19は、商品の情報として、外字フォントセットの商品名と、この商品名に対応する外字フォントセットのファイル名(商品ファイル名)とを保持する。

【0037】

図3に戻って、補助記憶装置21は、納品ファイルの格納領域22と、登録ホームページの格納領域23と、購入ホームページの格納領域24と、商品ファイルの格納領域25とを保持する。格納領域22は、購入者に納品される少なくとも1つの商品データを含むファイル、即ち納品ファイルを保持する。

【0038】

格納領域23には、WWWのような接続形態で端末装置1が販売サーバ3にアクセスするために必要な情報が格納される。即ち、格納領域23は、端末装置1のユーザが自身(ユーザが所属する法人を含む)を商品の購入者として登録するためのホームページ(Webページ)としての登録ホームページに関するデータ(テキストファイル、イメージファイル、HTMLファイル等)を保持する。

## 【0039】

格納領域24には、WWWのような接続形態で端末装置1が販売サーバ3にアクセスするために必要な情報が格納される。即ち、格納領域24は、端末装置1のユーザが販売サーバ3から商品を購入するためのホームページ(Webページ)としての購入ホームページ(「販売サイト」とも表記)に関するデータ(テキストファイル、イメージファイル、HTMLファイル等)を保持する。

## 【0040】

格納領域25は、販売サーバ3から販売サイトを通じて販売される少なくとも1つの商品ファイルを保持する。図11(A)及び図11(B)は、格納領域25に格納された商品ファイルの例を示す図である。

## 【0041】

図11(A)には、商品名「明朝体」の商品ファイル25A(ファイル名"min.ttf")が示され、図11(B)には、商品名「ゴシック体」の商品ファイル25B(ファイル名"go.ttf")が示されている。

## 【0042】

各商品ファイル25A, 25Bは、複数種類の外字フォントのデータ(商品データ)と、商品データに割り当てられた識別コードとをペアで格納している。なお、この例では、各識別コードは、外字フォントの文字コードと同じコードが使用されている。もっとも、識別コードと文字コードとが異なっても良い。

## 【0043】

図3に戻って、メモリ26は、販売サーバ3のメインメモリとして機能し、CPU27の作業領域や、表示部12に情報を表示するためのデータを保持するビデオメモリとして使用される。

## 【0044】

例えば、メモリ26は、CPU27によるプログラムの実行に従ってDB4や補助記憶装置21から読み出されるデータを一時的に記憶する。また、メモリ26上には、CPU27が商品の販売に関する処理を行う際に、識別コード保存テーブル20が作成される。

## 【0045】



図8は、識別コード保存テーブル20の説明図である。識別コード保存テーブル20は、購入者名及び商品名ごとに作成される。識別コード保存テーブル20は、購入者の注文中に含まれた外字フォントの識別コードを保持する。即ち、識別コード保存テーブル20は、購入すべき外字フォントとして購入者に選択されたが未だ購入者に納品されていない外字フォントの識別コードを購入者名及び商品名に対応づけて保持する。

## 【0046】

図3に戻って、CPU27は、補助記憶装置21に記録された各種のプログラムを実行することによって、購入者情報処理部28、ログイン部29、画面作成部30、価格計算部31、回線接続部32、納品ファイル作成部33、支払確認部34、及び納品部35を実現し、これらを制御する。

## 【0047】

購入者情報処理部28は、購入者登録画面(図12)を用いて入力された情報をDB4の購入者情報テーブル14に保存する。ログイン部29は、購入者が販売サーバ3の商品購入ページに進むために必要なユーザ認証を行う。

## 【0048】

画面生成部30は、端末装置1に送る画面情報を作成する。この例では、画面作成部30は、購入者登録画面36(図12)、ログイン画面37(図13)、商品選択画面38(図14)、商品データ選択画面39(図15)、及び見積画面40(図16)の情報を夫々作成する。

## 【0049】

図12は、購入者登録画面36の表示例を示す図である。購入者登録画面36は、購入者が購入者登録を行う操作画面である。購入者登録画面36は、購入者の個人情報を入力するための複数の欄として、購入者名、購入者が作成したパスワード、電子メールアドレス、電話番号、郵便番号、住所の各入力欄を有している。また、購入者登録画面36は、登録ボタン41を有している。登録ボタン41は、各入力欄に記入された個人情報の内容を確定するとともに、確定された個人情報を販売サーバ3へ送信するためのボタンである。

## 【0050】

図13は、ログイン画面37の表示例を示す図である。ログイン画面37は、商品販売システムの販売サイトにログインするための操作画面である。ログイン画面37は、購入者が販売サイトにログイン(アクセス)するためのアカウント情報を入力するための複数の入力欄として、購入者名(ユーザ名)とパスワードとの各入力欄を有している。また、ログイン画面37は、ログインボタン42を有している。ログインボタン42は、各入力欄に記入された購入者名(ユーザ名)及びパスワードを販売サーバ3へ送信するためのボタンである。

## 【0051】

図14は、商品選択画面38の表示例を示す図である。商品選択画面38は、購入者が購入すべき商品を選択するための操作画面である。商品選択画面38は、商品名の一覧を表示する表示領域43と、商品選択ボタン44とを有している。表示領域43には、販売サイトにて販売される(購入者が購入可能な)商品の商品名の一覧が表示される。購入者は、一覧に含まれた商品名の中から購入を希望する商品名を操作部5の操作によって選択(指定)する。商品選択ボタン44は、購入者によって商品名の一覧から選択された商品名を販売サーバ3へ送信するためのボタンである。

## 【0052】

図15は、商品データ選択画面39の表示例を示す図である。商品データ選択画面39は、識別コードにより商品データが一覧表示された画面を購入者が参照し購入すべき商品データの識別コードを入力して商品データの選択を行うための操作画面である。

## 【0053】

商品データ選択画面39は、商品データ一覧の表示領域45と、識別コードの入力欄46と、選択ボタン47と、見積ボタン48とを有している。表示領域45に表示される商品データ一覧は、商品選択画面38にて選択された商品名に対応する商品ファイルに含まれた各商品データ(外字フォント)を、その識別コードとともに表示する。

## 【0054】

入力欄46には、購入者が購入を希望する識別コードが入力される。選択ボタ

ン 4 7 は、購入者が商品データの選択を確定するためのボタンであり、入力欄 4 6 に識別コードが表示されている場合に選択ボタン 4 7 が押されると、表示されている識別コードに対応する商品データが選択されたものとして確定される。見積ボタン 4 8 は、購入者が選択した 1 以上の商品データの価格の見積依頼を入力するためのボタンである。

#### 【 0 0 5 5 】

図 1 6 は、見積画面 4 0 の表示例を示す図である。見積画面 4 0 は、購入者が購入価格を確認するための操作画面である。見積画面 4 0 には、商品名と、前回の購入時までの購入実績(過去に購入した当該商品中の外字フォントの種類数)と、今回の購入される外字フォントの種類数と、価格の明細とが表示される。

#### 【 0 0 5 6 】

図 3 に戻って、価格計算部 3 1 は、購入履歴テーブル 1 5 (図 5) と識別コード保存テーブル 2 0 (図 8) の保持内容から今回の購入価格を計算する。回線接続部 3 2 は、販売サーバ 3 を回線に接続し、WWW の HTTP や FTP といった通信プロトコルによる通信を可能とするための処理を司る。価格計算部 3 1 が、本発明の検出部、読出部、第 1 算出部、第 2 算出部、加算部、算出部に相当する。

#### 【 0 0 5 7 】

納品ファイル作成部 3 3 は、識別コード保存テーブル 2 0 (図 8) の保持内容に基づいて購入者に納品すべき商品データを含む電子ファイル(納品ファイル)を作成する。なお、今回購入される商品データのみを含む納品ファイルを作成しても良く、今回購入される商品データと過去に購入された商品データとを含む納品ファイルを作成しても良い。

#### 【 0 0 5 8 】

支払い確認部 3 4 は、購入者からの支払があった場合に、納品情報テーブル 1 8 (図 9) の該当する支払フラグを「済」に設定する。納品部 3 5 は、納品情報テーブル 1 8 (図 9) の支払フラグの状態が「済」となった場合に、補助記憶装置 2 1 の格納領域 2 2 に格納されている納品ファイルを端末装置 1 へ転送する。

#### 【 0 0 5 9 】

図 1 7 は、商品販売システムによる商品売買の概要を説明するフローチャート

である。図 1 7 において、最初に、購入者は、端末装置 1 を操作して販売サーバ 3 から提供される登録ホームページにアクセスし、販売サーバ 3 から提供される購入者登録画面 3 6 (図 1 2) を用いて購入者登録を行う(フェーズ F 1)。

【 0 0 6 0 】

次に、購入者は、端末装置 1 を操作し、販売サーバ 3 から提供されるログイン画面 3 7 (図 1 3) を用いて販売サイトにログインする(フェーズ F 2)。次に、購入者は、販売サーバ 3 から提供される商品選択画面 3 8 (図 1 4) を用いて商品を選択する(フェーズ F 3)。

【 0 0 6 1 】

次に、購入者は、販売サーバ 3 から提供される商品データ選択画面 3 9 (図 1 5) を用いて 1 以上の商品データを選択する(フェーズ F 4)。すると、商品データの選択結果に応じた見積画面 4 0 (図 1 6) が販売サーバ 3 から端末装置 1 に提供され、代金の見積価格が表示部 6 に表示される(フェーズ F 5)。

【 0 0 6 2 】

次に、購入者は、見積画面 4 0 を参照し、提示された代金の見積価格を了承する場合には、その代金の支払いを行う(フェーズ F 6)。支払方法は、金融機関の口座番号やクレジットカード番号を用いて販売サーバ 3 が購入者の金融機関の口座から代金を引き落とす方法であっても良く、購入者が代金を金融機関に振り込んだり、販売者に送金したりする方法であっても良い。

【 0 0 6 3 】

そして、販売サーバ 3 は、購入者からの代金の支払いを確認すると、選択された 1 以上の商品データを含む納品ファイルを販売サーバ 3 から端末装置 1 へ送信する。これによって、納品ファイルが購入者に納品される。

【 0 0 6 4 】

図 1 8 は、図 1 7 に示した購入者登録(フェーズ F 1)の詳細を説明するシーケンス図である。図 1 8 において、ユーザは、販売サーバ 3 を通じて商品を購入する場合には、購入者登録(メンバー登録)を行う。このため、ユーザは、最初に、操作部 5 を用い、端末装置 1 をネットワーク 2 に接続するための操作を行うとともに、登録ホームページの URL (Uniform Resource Locator) を指定する。する

と、端末装置 1 の回線接続部 9 (図 2) が端末装置 1 をネットワーク 2 を通じて販売サーバ 3 に接続するとともに、登録ホームページへのアクセス要求を送信する(ステップ S 0 1)。

【 0 0 6 5 】

販売サーバ 3 が端末装置 1 からのアクセス要求を受信すると、画面作成部 3 0 (図 3) が、補助記憶装置 2 1 の格納領域 2 3 から必要な情報をメモリ 2 6 へ読み出し、購入者登録画面 3 6 の画面情報を作成する。画面作成部 3 0 は、画面情報を作成し終わると、作成した画面情報を回線接続部 3 2 を介して該当する端末装置 1 へ送信する(ステップ S 0 2)。

【 0 0 6 6 】

端末装置 1 が画面情報を受信すると、画面制御部 8 (図 2) が、受信された画面情報に基づいて購入者登録画面 3 6 (図 1 2) を表示部 6 に表示する(ステップ S 0 3)。ユーザは、表示された購入者登録画面 3 6 を参照し、購入者情報を当該画面 3 6 の各入力欄に操作部 5 を用いて記入する(ステップ S 0 4)。記入された購入者情報は、メモリ 1 0 に一時保存されるとともに、当該画面 3 6 に表示される。

【 0 0 6 7 】

その後、購入者は、記入した購入者情報に誤りが無いことを確認すると、操作部 5 を用いて登録ボタン 4 1 を押す。すると、画面制御部 8 が、メモリ 1 0 に一時保存されている購入者情報を回線接続部 9 を介して販売サーバ 3 へ送信する(ステップ S 0 5)。

【 0 0 6 8 】

販売サーバ 3 が購入者情報を受信すると、購入者情報処理部 2 8 が、受信された購入者情報を含むレコードを作成し、DB 4 の購入者情報テーブル 1 4 (図 4) に格納する(ステップ S 0 6)。このようにして、購入者登録が行われる。

【 0 0 6 9 】

図 1 9 は、図 1 7 に示したログイン(フェーズ F 2)から見積(フェーズ F 5)までの詳細を説明するシーケンス図である。図 1 9 において、商品を購入する場合には、購入者は、端末装置 1 を操作し、販売サーバ 3 から提供される販売サイト

(購入ホームページ)へアクセスする。

【 0 0 7 0 】

このため、購入者は、操作部 5 を用い、端末装置 1 をネットワーク 2 に接続するための操作を行うとともに、購入ホームページの URL を指定する。すると、端末装置 1 の回線接続部 9 (図 2) が端末装置 1 をネットワーク 2 を通じて販売サーバ 3 に接続するとともに、販売サイトへのアクセス要求を送信する(ステップ S 1 1)。

【 0 0 7 1 】

販売サーバ 3 が端末装置 1 からのアクセス要求を受信すると、画面作成部 3 0 (図 3) が、補助記憶装置 2 1 の格納領域 2 4 から必要な情報をメモリ 2 6 へ読み出し、ログイン画面 3 7 の画面情報を作成する。画面作成部 3 0 は、画面情報を作成し終わると、作成した画面情報を回線接続部 3 2 を介して該当する端末装置 1 へ送信する(ステップ S 1 2)。

【 0 0 7 2 】

端末装置 1 が画面情報を受信すると、画面制御部 8 (図 2) が、受信された画面情報に基づいてログイン画面 3 7 (図 1 7) を表示部 6 に表示する(ステップ S 1 3)。購入者は、表示されたログイン画面 3 7 を参照し、購入者名及びパスワードを入力する(ステップ S 1 4)。記入された購入者名及びパスワードは、メモリ 1 0 に一時保存されるとともに、当該画面 3 7 に表示される。

【 0 0 7 3 】

その後、購入者は、記入した購入者名及びパスワードに誤りが無いことを確認すると、操作部 5 を用いてログインボタン 4 2 を押す。すると、画面制御部 8 が、メモリ 1 0 に一時保存されている購入者名及びパスワードを回線接続部 9 を介して販売サーバ 3 へ送信する(ステップ S 1 5)。

【 0 0 7 4 】

販売サーバ 3 が購入者名及びパスワードを受信すると、ログイン部 2 9 (図 3) がユーザ認証を行う。即ち、ログイン部 2 9 は、受信された購入者名及びパスワードと DB 4 の購入者情報テーブル 1 4 (図 4) とを照会し、受信した購入者名及びパスワードを含むレコードが購入者情報テーブル 1 4 にあるか否かを判定する

## 【0075】

このとき、該当するレコードがない場合には、その旨のメッセージが端末装置 1 に送信され、その旨が表示部 6 に表示されるとともに、再びログイン画面 37 が表示される。これに対し、該当するレコードがある場合には、ログイン部 29 は、適正な購入者からのアクセスと判定する。すると、購入者情報処理部 28 が、メモリ 26 上に識別コード保存テーブル 20 (図 8) を作成し、作成したテーブル 20 の購入者名の格納領域に、照会した購入者名を格納する。

## 【0076】

続いて、画面作成部 30 が、補助記憶装置 21 の格納領域 24 から必要な情報をメモリ 26 へ読み出すとともに、DB 4 の商品情報テーブル 19 (図 10) に保持された商品名の一覧をメモリ 26 に読み出し、読み出した情報を用いて商品選択画面 38 の画面情報を作成する。画面作成部 30 は、作成した画面情報を回線接続部 32 を介して該当する端末装置 1 へ送信する(ステップ S17)。

## 【0077】

端末装置 1 が画面情報を受信すると、画面制御部 8 (図 2) が、受信された画面情報に基づいて商品選択画面 38 (図 18) を表示部 6 に表示する(ステップ S18)。購入者は、表示された商品選択画面 38 を参照し、操作部 5 を用いて、購入を希望する商品名を表示領域 43 に表示された商品名の一覧から選択する(ステップ S19)。選択された商品名は、メモリ 10 に一時保存される。

## 【0078】

その後、購入者は、選択した商品名に誤りが無いことを確認すると、操作部 5 を用いて商品選択ボタン 44 を押す。すると、画面制御部 8 が、メモリ 10 に一時保存されている商品名を回線接続部 9 を介して販売サーバ 3 へ送信する(ステップ S20)。

## 【0079】

販売サーバ 3 が商品名を端末装置 1 から受信すると、購入者情報処理部 28 が、識別コード保存テーブル 20 (図 8) の商品名の格納領域に、受信した商品名を格納する。また、画面作成部 30 が、商品データを照会する(ステップ S21)。

即ち、画面作成部 3 0 は、DB 4 の商品情報テーブル 1 9 (図 1 0) を参照し、受信した商品名に対応するファイル名があるか否かを判定する。このとき、該当するファイル名がない場合には、購入対象の商品ファイルがない旨のメッセージが端末装置 1 へ送信される。

#### 【 0 0 8 0 】

これに対し、該当するファイル名が商品情報テーブル 1 9 にある場合には、画面作成部 3 0 は、そのファイル名をメモリ 2 6 に読み出す。続いて、画面作成部 3 0 は、補助記憶装置 2 1 の格納領域 2 4 から必要な情報をメモリ 2 6 へ読み出すとともに、メモリ 2 6 に読み出したファイル名に対応する商品ファイルを格納領域 2 5 からメモリ 2 6 へ読み出し、読み出した情報を用いて商品データ選択画面 3 8 の画面情報を作成する。その後、画面作成部 3 0 は、作成した画面情報を回線接続部 3 2 を介して該当する端末装置 1 へ送信する(ステップ S 2 2)。

#### 【 0 0 8 1 】

端末装置 1 が画面情報を受信すると、画面制御部 8 (図 2) が、受信された画面情報に基づいて商品データ選択画面 3 9 (図 1 9) を表示部 6 に表示する(ステップ S 2 3)。購入者は、表示された商品データ選択画面 3 9 を参照し、操作部 5 を用いて、購入を希望する商品データの識別コードを入力欄 4 6 に入力する(ステップ S 2 4)。入力された識別コードは、メモリ 1 0 に一時保存される。

#### 【 0 0 8 2 】

続いて、購入者は、入力した識別コードに誤りが無いことを確認すると、操作部 5 を用いて選択ボタン 4 7 を押す(ステップ S 2 5)。すると、画面制御部 8 が、メモリ 1 0 に一時保存されている識別コードを回線接続部 9 を介して販売サーバ 3 へ送信する。

#### 【 0 0 8 3 】

販売サーバ 3 が識別コードを受信すると、購入者情報処理部 2 8 が、メモリ 2 6 上の識別コード保存テーブル 2 0 を更新する。即ち、購入者情報処理部 2 8 は、受信した識別コードを、識別コード保存テーブル 2 0 (図 8) の識別コードの格納領域に格納する。

#### 【 0 0 8 4 】



その後、販売サーバ3は、識別コード又は見積ボタン48の押し下げによる見積要求が端末装置1から送信されてくるのを待つ状態となる。一方、端末装置1は、選択ボタン47の押し下げによって選択された識別コードを送信した後、購入者による識別コードの入力又は見積ボタン48の押し下げを待つ状態となる。

【0085】

従って、購入者は、再び、他の商品データの識別コードを選択・入力し、選択ボタン47を押せば、選択された識別コードが販売サーバ3へ送信され、識別コード保存テーブル20に格納される。即ち、購入者は、ステップS24及びS25の操作を繰り返すことによって、一回の購入に際して1以上の商品データを選択することができる。

【0086】

そして、購入者が今回の購入において購入すべき全ての商品データを選択し、選択ボタン47を押した場合には、今回の購入の注文内容が識別コード保存テーブル20に保存された状態となる。その後、購入者は、操作部5を用いて見積ボタン48を押す。すると、画面制御部8が、見積要求を回線制御部9を介して販売サーバ3へ送信する(ステップS27)。

【0087】

販売サーバ3が見積要求を受信すると、価格計算部31(図3)が今回の注文内容に対応する見積価格を計算する(ステップS28)。即ち、価格計算部31は、DB4の購入履歴テーブル15(図5)を参照し、識別コード保存テーブル20に格納された購入者名及び商品名を含む購入実績レコード中の購入実績(既に購入された外字フォントの種類の累計数)をメモリ26に読み出す。例えば、図5に示すように、購入者名が“A商事”であり、商品名が“明朝体”である場合には、購入実績“150[文字]”が購入履歴テーブル15からメモリ26に読み出される。

【0088】

次に、価格計算部31は、通減価格テーブル16(図6)の保持内容と、識別コード保存テーブル20(図8)に保持された注文内容とを用いて購入価格を計算する。即ち、価格計算部31は、識別コード保存テーブル20を参照し、今回の注

文において選択された識別コードの総数を得る。

【0089】

次に、価格計算部31は、得た総数を読み出された購入実績に加算し、今回購入される商品データが何文字目(何種類目)から何文字目(何種類目)までに該当するかを求める。例えば、識別コード保存テーブル20に保持された識別コードの数(文字数)が100である場合には、 $\text{購入実績}(150[\text{文字}]) + 100[\text{文字}] = 250[\text{文字}]$ により、今回購入される商品データが151文字目から250文字目に該当することが求められる。

【0090】

次に、価格計算部31は、逓減価格テーブル16を参照し、今回購入される各商品データが属する単価の適用範囲を求め、各商品データに割り当てられる単価を求める。

【0091】

上記例では、151文字目から200文字目までに該当する商品データは、1つ当たりの単価が700円である適用範囲(101文字から200文字)に属する。このため、100の商品データのうちの50は、1つ当たり700円となる。一方、201文字目から250文字目に該当する商品データは、1つ当たりの単価が500円である適用範囲(201文字から300文字)に属する。このため、残りの50の商品データは、1つ当たり500円となる。

【0092】

そして、価格計算部31は、求めた単価と各単価が適用される商品データの数とを用いて今回の注文内容に対する購入価格を算出する。上記例では、価格計算部31は、購入価格として、 $(700[\text{円}] \times 50[\text{文字}]) + (500[\text{円}] \times 50[\text{文字}]) = 60000[\text{円}]$ を求める。価格計算部31は、求めた購入価格をメモリ26に参照する。

【0093】

購入価格が求められると、画面作成部30が、格納領域24から必要な情報をメモリ26へ読み出し、読み出した情報と、既にメモリ26に格納されている情報(商品名、購入実績、今回購入される商品データの総数、購入価格)とを用いて

、見積画面 4 0 の画面情報を作成する。その後、画面作成部 3 0 は、作成した画面情報を回線接続部 3 2 を介して該当する端末装置 1 へ送信する(ステップ S 2 9)。

【 0 0 9 4 】

また、画像作成部 3 0 は、注文内容を保存するため、納品情報テーブル 1 8 (図 9)に、識別コード保存テーブル 2 0 に格納された購入者名及び商品名と、メモリ 2 6 に保存された購入価格を含む新たな納品情報レコードを記録し、当該納品情報レコードの支払いフラグを“未払い”に設定する。

【 0 0 9 5 】

端末装置 1 が画面情報を受信すると、画面制御部 8 (図 2)が、受信された画面情報に基づいて見積画面 4 0 (図 1 6)を表示部 6 に表示する(ステップ S 3 0)。購入者は、表示された見積画面 4 0 を参照し、購入実績に応じて商品データの単価が割り引かれ、商品データを購入し易くなっていることを把握することができる。

【 0 0 9 6 】

図 2 0 は、図 1 7 に示した支払(フェーズ F 6)及び納品(フェーズ F 7)の詳細を示すシーケンス図である。図 2 0 において、見積画面 4 0 を参照した購入者は、見積価格を了承し、商品データを購入する場合には、代金を商品の販売者に支払う(ステップ S 4 0)。

【 0 0 9 7 】

支払いは、上述したように、購入者が金融機関へ代金を振り込んだり、送金を依頼したり、クレジットカードでの支払いを申し込んだりすることで行われる。即ち、いわゆるネット販売で実施されているあらゆる支払い方法を適用することができる。

【 0 0 9 8 】

この例では、購入者が代金を販売者の金融機関の口座に入金すると、その金融機関のコンピュータが、入金があった旨の通知(決済通知)を電子メールで販売サーバ 3 へ通知する。なお、決済通知には、購入者名、商品名及び購入価格(入金金額)が含まれている。

## 【 0 0 9 9 】

販売サーバ 3 が決済通知の電子メールを受信すると、販売サーバ 3 の支払確認部 3 4 (図 3) は、決済通知を参照することにより、入金を確認する(ステップ S 4 1)。即ち、支払確認部 3 4 は、決済通知に含まれた購入者名、商品名及び購入価格を検出する。

## 【 0 1 0 0 】

続いて、支払確認部 3 4 は、DB 4 の納品情報テーブル 1 8 (図 9) を参照し、検出した購入者名、商品名及び購入価格に一致する購入者名、商品名及び購入価格を含む納品情報レコードを検索する。このとき、支払確認部 3 4 は、該当する納品情報レコードを見つけることができた場合には、当該納品情報レコードに関する代金が支払われたものとして、当該納品情報レコードの支払フラグを“支払済”に設定する。

## 【 0 1 0 1 】

すると、納品部 3 5 が、当該納品情報レコードの支払フラグが“支払済”であることを確認し、当該納品情報レコードに含まれた購入者名及び商品名に対応する 1 以上の商品データの識別コードを識別コード保存テーブル 2 0 (図 8) から取得する。

## 【 0 1 0 2 】

続いて、納品部 3 5 は、識別コード保存テーブル 2 0 から取得した 1 以上の識別コードに対応する商品データを格納するためのファイルを納品ファイルとして作成し、任意のファイル名(図 9 に示す例では、納品ファイル名は“adsl1.ttf”)を設定する。

## 【 0 1 0 3 】

次に、納品部 3 5 は、補助記憶装置 2 1 の格納領域 2 5 に保持された該当する商品ファイル(この例では商品ファイル 2 5 A)から、今回の購入対象に相当する 1 以上の識別コードに対応する商品データをコピーし、納品ファイルに格納する。このようにして作成された納品ファイルは、補助記憶装置 2 1 の格納領域 2 2 に格納される。

## 【 0 1 0 4 】

また、納品部 3 5 は、上記処理と並行して、上記納品情報レコードに含まれた購入者名及び商品名を含む商品データ購入履歴テーブル 1 7 (図 7) を参照し、納品ファイルに含まれた商品データの識別コードに対応する購入フラグを“購入済”に設定する。

【0 1 0 5】

なお、購入者による購入が初回の場合には、納品情報レコードに含まれた購入者名及び商品名に対応する商品データ購入履歴テーブル 1 7 が新たに作成され、納品ファイルに含まれた 1 以上の商品データの識別コードに対応する購入フラグが“購入済”に設定される。

【0 1 0 6】

その後、納品部 3 5 は、自発的に又は端末装置 1 からの要求に応じて、格納領域 2 2 に格納した納品ファイルを回線接続部 3 2 を介して該当する端末装置 1 へ送信する(ステップ S 4 3)。

【0 1 0 7】

例えば、納品部 3 5 は、納品ファイルが添付ファイルとして添付された電子メールを作成し、購入者情報テーブル 1 4 (図 4) に格納された購入者の電子メールアドレスを宛先として送信する。

【0 1 0 8】

或いは、納品部 3 5 は、端末装置 1 が納品ファイルをダウンロードするためのアドレス情報(U R L)を端末装置 1 に通知する。その後、端末装置 1 からのダウンロード要求に応じて販売サーバ 3 が端末装置 1 に納品ファイルを送信する。

【0 1 0 9】

なお、購入者が代金を販売者への銀行振込等の支払方法を用いて支払う場合には、ステップ S 4 1 は、上述した処理に代えて、販売サーバ 3 の管理者(販売者)が、購入者からの支払を確認後、表示部 1 2 や操作部 1 1 を用いて納品情報テーブル 1 8 の内容を参照し、該当する納品情報レコードの支払フラグを“支払済”に設定する。

【0 1 1 0】

或いは、納品部 3 5 は、納品画面 5 0 (図 2 9 参照)の U R L を、購入者に通知

する。納品画面 5 0 は、購入者が端末装置 1 を操作し、或る D B に格納された納品ファイルをダウンロードするための操作画面である。

【 0 1 1 1 】

納品画面 5 0 の U R L の通知方法は、W e b ページに掲載することでも良く、電子メールを購入者へ送信することでも良い。なお、納品画面 5 0 の U R L の通知方法は、その他の伝達方法(電話、手紙)によっても良い。

【 0 1 1 2 】

また、納品部 3 5 は、納品ファイルを、納品ファイルの格納領域 2 2 ではなく、D B としての納品情報テーブル 5 1 (図 3 0 参照)の納品データフィールド 5 2 に格納する。

【 0 1 1 3 】

その後、購入者は、端末装置 1 を操作して通知された U R L にアクセスし、ユーザ認証を行い、納品画面 5 0 を表示部 6 に表示させる。購入者は、納品画面 5 0 の表示内容に従って、納品ファイルをダウンロードする。

【 0 1 1 4 】

納品画面 5 0 には、図 2 9 に示すように、購入者名、商品名、納品場所、及び納品ファイル名が表示される。納品場所として、例えば、D B にアクセスする為のファイル名情報(D B へのハイパーリンクが設定されたファイル名)が表示される。

【 0 1 1 5 】

この例では、“<A HREF=“download.asp?FILENAME=adddl.ttf”> ファイル名は「adddl.ttf」です</A>”のような H T M L 文書に従って表示される「ファイル名は「adddl.ttf」です」が表示されている。

【 0 1 1 6 】

購入者が納品画面 5 0 に表示された「ファイル名は「adddl.ttf」です」をクリックすると、H T M L のハイパーリンク機能によって“download.asp?FILENAM E=adddl.ttf”のようにアドレス指定されたファイルへジャンプする。ファイル“download.asp”では、一般にはスクリプトと呼ばれるプログラム言語で D B 内の所定の箇所にアクセスを行い、購入者の端末装置 1 にデータファイルをダウン

ロードできるような記述がなされている。従って、上記クリックにより、納品情報テーブル 5 1 から納品ファイル “adssl.ttf” が読み出され、購入者の端末装置 1 へ送信される。

## 【 0 1 1 7 】

このように、納品ファイルがネットワークに接続されたデータベースに配置され、購入者が端末装置 1 を操作してデータベースにアクセスし、納品ファイルをダウンロードするようにしても良い。

## 【 0 1 1 8 】

なお、上記例では、納品ファイルが作成されるまで識別コード保存テーブル 2 0 の内容が保持されるようになっているが、見積画面 4 0 が送信されてから(ステップ S 2 9)支払いが確認される(ステップ S 4 1)までの期間が長い場合には、識別コード保存テーブル 2 0 の内容を D B 4 や補助記憶装置 2 1 に退避するようにしても良い。また、識別コード保存テーブル 2 0 が D B 4 や補助記憶装置 2 1 上に作成するようにしても良い。

## 【 0 1 1 9 】

第 1 実施形態による商品販売システムによると、購入者が購入する外字フォント(商品データ)の種類数に応じて各外字フォントに適用される単価が決定される。このとき、外字フォントの種類数(本発明の第 1 の態様における構成要素の数)が多くなるほど安い単価が適用される。

## 【 0 1 2 0 】

これによって、多種類の外字フォントを購入する場合の購入価格が抑えられる。このため、購入者が多くの外字フォントを購入し易くなる。従って、価格を要因とした売買不成立を抑えることができ、外字フォントの販売促進を図ることができる。

## 【 0 1 2 1 】

また、本実施形態では、販売サーバ 3 が購入者の過去の購入実績を記録し、購入実績として記録された過去に購入した外字フォントの種類数(累積数)と、今回の購入における外字フォントの種類数との和を求め、求めた加算結果に応じて今回購入される各外字フォントに適用される単価が求められる。

## 【 0 1 2 2 】

これによって、一度に多種類の外字フォントを購入しても、複数回に分けて多種類の外字フォントを購入しても、外字フォントの購入数が同じであれば、購入に要する費用は同じとなる。このように、購入価格の公平が図られるので、購入資金が乏しい購入者に対し、商品販売システムを用いた外字フォントの購入意欲を喚起することができる。

## 【 0 1 2 3 】

このように、本実施形態では、購入者により購入対象として指定される商品の販売価格(即ち、購入者の購入価格)が、購入者の過去の商品の購入実績に基づいて決定されるようになっている。

## 【 0 1 2 4 】

なお、納品ファイルの作成において、上述した構成に代えて、納品ファイル作成部 3 3 が過去に購入した商品データが追加された納品ファイルを作成し、納品するようにしても良い。

## 【 0 1 2 5 】

即ち、納品ファイル作成部 3 3 は、識別コード保存テーブル 2 0 から 1 以上の識別コードを取り出した場合に、この識別コード保存テーブル 2 0 に保存されている購入者名及び商品名を格納した商品データ購入履歴テーブル 1 7 を検出し、検出した商品データ購入履歴テーブル 1 7 から購入フラグが“購入済”に設定されている 1 以上の識別コードを取得する。

## 【 0 1 2 6 】

続いて、納品ファイル作成部 3 3 は、識別コード保存テーブル 2 0 及び商品データ購入履歴テーブル 1 7 から夫々取り出した 1 以上の識別コードに対応する商品データを含む納品ファイルを作成する。即ち、納品ファイル作成部 3 3 は、購入者が今回購入する 1 以上の商品データに加え、過去に購入した 1 以上の商品データを含む納品ファイルを作成する。

## 【 0 1 2 7 】

このような納品ファイルが購入者に納品されることで以下の利点がある。即ち、購入者の 2 回目以降の外字フォントの購入において、今回購入する 1 以上の商



品データのみが含まれた納品ファイルが納品されると、購入者は、過去に納品された納品ファイルと、今回納品された納品ファイルとを組み合わせなければ今回の納品ファイルに含まれた商品データを使用できないことが多い。即ち、追加購入により購入した 1 以上の商品データを含む納品ファイルは、そのままでは使用できないことが多い。

#### 【0128】

従って、上述したように、販売サーバ 3 で購入者が購入を希望した全ての商品データを含む納品ファイルを納品するようにすれば、購入者は手間を省くことができる。このように、販売サーバ 3 が利便性の高い納品ファイルを作成・納品することによって、商品販売システムの利用者を増やすことができ、販売促進を図ることができる。

#### 【0129】

##### 〔第 2 実施形態〕

次に、本発明の第 2 実施形態を説明する。第 2 実施形態は、第 1 実施形態と共通点を有するので、主として相違点について説明する。第 1 実施形態では、複数種類の外字フォントからなる外字ファイルを商品の例として説明した。これに対し、第 2 実施形態は、商品が、複数の章から構成される電子書籍を販売する商品販売システムである。

#### 【0130】

第 2 実施形態は、商品販売システムのネットワーク構成、端末装置 1 及び販売サーバ 3 の構成は第 1 実施形態とほぼ同じである。但し、以下に説明するように、DB 4 内の各テーブルの保持内容が異なる。

#### 【0131】

図 2 1 は、第 2 実施形態における購入履歴テーブル 1 5 A の説明図である。図 2 1 に示すように、商品名が書籍名を示し、購入実績が購入者が過去に購入した章数(累計)を示す点で第 1 実施形態と異なる。

#### 【0132】

図 2 2 は、第 2 実施形態における通減価格テーブル 1 6 A の説明図である。図 2 2 に示すように、複数の単価に対応する適用範囲が定義されている点では、第

1 実施形態と同じであるが、適用範囲を確定するための適用開始及び適用終了の単位が章となっている。

【0133】

図23は、第2実施形態における商品データ購入履歴テーブル17Aの説明図である。図23に示すように、電子書籍の各章に割り当てられた識別コードに対して購入フラグが設定される点で第1実施形態と異なる。

【0134】

図24は、第2実施形態における識別コード保存テーブル20Aの説明図である。図24に示すように、今回購入される1以上の章の識別コード(章番号)が格納される点で第1実施形態と異なる。

【0135】

図25は、第2実施形態における納品情報テーブル18Aの説明図である。図25に示すように、商品名が書籍名となっている点で第1実施形態と異なる。図26は、第2実施形態における商品情報テーブル19Aの説明図である。図26に示すように、商品名が書籍名となっている点で第1実施形態と異なる。

【0136】

図27は、格納領域25に格納される書籍商品ファイルの説明図である。書籍商品ファイルは、一般的にXMLと呼ばれるファイル構造を持つ。商品名に対応するファイル名のXMLファイルが用意され、章単位でデータを管理可能なフォーマットで記述されている。図27は、商品名“半導体ブック〇〇号(ファイル名:h dxxx.xml)”の書籍商品ファイルを示し、この書籍商品ファイルを用いて、購入者が購入を希望する章のデータを含む納品ファイル(ファイル名:a#hbxxx.xml)が作成される。

【0137】

図28は、書籍商品ファイルの他の例を示す説明図である。図28に示す例では、記録媒体(図28では、“G”ドライブとして認識されるデバイス)上に、書籍名や号数といった情報のディレクトリツリーが作成され、各ディレクトリに各章の電子データを含むファイルが格納されている。この場合には、商品ファイル名や納品ファイル名は、複数の章のファイル名の併記、複数の章のファイルを格

納しているディレクトリ名や複数章ファイルをマージしたアーカイブファイル名などが使用される。

【0138】

購入の際における処理は、第1実施形態とほぼ同様である(図17～図20参照)。端末装置1に提供される各操作画面は、図12～図16に示した各画面中の“文字”が“章”に変更される点を除けば、図12～図16に示した各画面と同じである。

【0139】

以下、購入者“A商事”が商品名“半導体ブック〇〇号”から90章(90種類の章)を購入する例を説明する。ステップS28の処理(図19)において、価格計算部31は、今回購入される章の数を識別コード保存テーブル20A(図24)から読み出す。このとき、今回の購入が初回の購入である場合には、価格計算部31は、通減価格テーブル16A(図22)を用いて、購入対象の各章に適用される単価を求め、求めた単価で購入価格を計算する。この場合には、購入価格は、 $90[\text{章}] \times 100[\text{円}] = 9000[\text{円}]$ となる。

【0140】

これに対し、今回の購入が2回目以降の購入である場合には、価格計算部31は、購入履歴テーブル15A(図21)から、過去の購入実績(20章)を読み出し、今回の購入分(90章)に加算し、この加算結果と通減価格テーブル16Aとを用いて購入価格を計算する。この場合には、購入価格は、 $80[\text{章}] \times 100[100] + 10[\text{章}] \times 90[\text{円}] = 8,900[\text{円}]$ となる。

【0141】

支払いから納品までの処理も、第1実施形態とほぼ同様である。購入者の代金の支払いによって納品情報テーブル18A(図25)の該当する納品情報レコードの支払フラグが“支払済”となった場合には、納品ファイル作成部33が、その納品情報レコードに含まれた購入者名及び商品名と一致する識別コード保存テーブル20Aに基づき納品ファイルを作成する。このとき、今回購入される1以上の章と過去に購入した1以上の章とが含まれた納品ファイルが作成され、納品されるようにしても良い。

## 【 0 1 4 2 】

以上説明したように、第 2 実施形態は、第 1 実施形態とほぼ同様の効果を得ることができる。本発明によれば購入者の取引引き状態(過去の購入実績)を適切にデータベースに保存することで追加購入が生じた場合、購入者にとって利便性の高い商品販売を提供することができるようになる。なお、第 1 実施形態にて説明した構成は、本発明の目的を達成可能な範囲で、第 2 実施形態に適宜組み合わせることができる。

## 【 0 1 4 3 】

なお、本発明の商品は、データ集合体の構成要素だけを対象にするものではなく、一般的な機器、用品、及び電子データ（アプリケーションプログラムを含む）の販売等にも適用することができる。

## 【 0 1 4 4 】

## 〔付記〕

本発明は、以下のように特定することができる。

（付記 1）ネットワークを通じて商品を販売するシステムであって、前記商品は、内容が相互に異なり単独で販売される複数種類の構成要素からなり、前記構成要素の種類数に応じた複数種類の構成要素の単価と、各単価の適用範囲とを記憶した単価記憶部と、購入者から受信した単数又は複数の購入対象の構成要素の情報に基づいて、当該購入対象の構成要素の種類数を検出する検出部と、検出された構成要素の種類数に基づいて前記購入対象の構成要素に適用される少なくとも 1 つの単価を前記単価記憶部から読み出す読出部と、読み出された前記少なくとも 1 つの単価の適用範囲に属する構成要素の数を算出する第 1 算出部と、前記読み出された前記少なくとも 1 つの単価と、算出された構成要素の数とを用いて前記購入価格を算出する第 2 算出部と、を備えた商品販売システム。

（付記 2）前記購入者によって過去に購入された構成要素の種類数を記憶する購入実績記憶部と、前記検出部によって構成要素の種類数が検出された場合に、前記過去に購入された構成要素の種類数を前記購入実績記憶部から読み出し、前記検出された種類数に加算する加算部と、をさらに備え、前記読出部は、前記加算部による加算結果を用いて前記購入対象の構成要素に適用される少なくとも 1 つ

の単価を前記単価記憶部から読み出す、付記 1 記載の商品販売システム。

(付記 3) 前記商品は、前記構成要素としてのデータの集合体であり、前記データの集合体を記憶したデータ記憶部と、記憶されたデータの集合体を用いて前記購入対象の構成要素の情報に対応するデータを含む納品ファイルを作成する納品ファイル作成部と、作成された納品ファイルを前記購入者に納品する納品部と、をさらに備えた付記 1 又は 2 記載の商品販売システム。

(付記 4) 前記納品ファイル作成部は、前記購入者に過去に購入されたデータをさらに含む納品ファイルを作成する、付記 3 記載の商品販売システム。

(付記 5) 前記データの集合体は、フォントセットデータであり、前記各データは、前記フォントセットデータを構成するフォントデータである、付記 3 又は 4 記載の商品販売システム。

(付記 6) 前記データの集合体は、所定の範囲毎に区切られた文章のデータであり、前記各データは、前記文章のデータを構成する各範囲のデータである、付記 3 又は 4 記載の商品販売システム。

(付記 7) 購入者がネットワークを通じて商品を購入するためのシステムであって、前記商品は、内容が相互に異なり単独で販売される複数種類の構成要素からなり、単数又は複数の購入対象の構成要素の情報を販売者に送信する送信部と、前記購入対象の構成要素の種類数に基づいて決定された少なくとも 1 つの構成要素の単価とその適用範囲とを用いて算出された当該購入対象の構成要素の価格を受信する受信部と、受信された価格を表示装置に表示する表示制御部と、を備えた商品購入システム。

(付記 8) 前記受信部は、前記購入対象の構成要素の種類数と前記購入者が過去に購入した構成要素の種類数との加算結果に基づいて決定された少なくとも 1 つの構成要素の単価を用いて算出された当該購入対象の構成要素の価格を受信する、付記 7 記載の商品購入システム。

(付記 9) 前記商品は、前記構成要素としてのデータの集合体であり、前記受信部は、前記購入対象の構成要素の情報に対応するデータを含む納品ファイルを受信する、付記 7 又は 8 記載の商品購入システム。

(付記 10) 前記受信部は、前記購入者に過去に購入されたデータをさらに含む

納品ファイルを受信する、付記 9 記載の商品購入システム。

(付記 1 1) クライアントと、前記クライアントとネットワークを通じて接続されるサーバとを備えた商品の販売システムであって、前記商品は、内容が相互に異なり単独で販売される複数種類の構成要素からなり、前記クライアントは、単数又は複数の購入対象の構成要素の情報を送信する送受信部と、前記送受信部によって前記購入対象の構成要素の価格としての購入価格が前記サーバから受信された場合に、受信された購入価格を表示装置に表示する表示制御部と、を含み、前記サーバは、前記構成要素の種類数に応じた複数種類の構成要素の単価を記憶した単価記憶部と、前記構成要素の情報を受信するとともに前記購入価格を送信する第 2 送受信部と、前記構成要素の情報に基づいて前記購入対象の構成要素の種類数を検出する検出部と、検出された構成要素の種類数に基づいて前記購入対象の構成要素に適用される少なくとも 1 つの単価を前記単価記憶部から読み出す読出部と、読み出された前記少なくとも 1 つの単価の適用範囲に属する構成要素の数を算出する第 1 算出部と、前記読み出された少なくとも 1 つの単価と、算出された構成要素の数とを用いて前記購入価格を算出する第 2 算出部と、を含む商品販売システム。

(付記 1 2) ネットワークを通じて商品を販売する処理をコンピュータに実行させるプログラムを記録した記録媒体であって、前記商品は、内容が相互に異なり単独で販売される複数種類の構成要素からなり、コンピュータに、前記構成要素の種類数に応じた複数種類の構成要素の単価を単価記憶部に記憶するステップと、購入者から受信した単数又は複数の購入対象の構成要素の情報に基づいて、当該購入対象の構成要素の種類数を検出するステップと、検出された構成要素の種類数に基づいて、前記購入対象の構成要素に適用される少なくとも 1 つの単価を前記単価記憶部から読み出すステップと、読み出された前記少なくとも 1 つの単価の適用範囲に属する構成要素の数を算出するステップと、前記読み出された少なくとも 1 つの単価と、算出された構成要素の数とを用いて前記購入価格を算出するステップと、を実行させるプログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体。

(付記 1 3) 前記購入者によって過去に購入された構成要素の種類数を購入実績

記憶部に記憶するステップと、前記構成要素の種類数が検出された場合に、前記過去に購入された構成要素の種類数を前記購入実績記憶部から読み出し、前記検出された種類数に加算するステップと、前記加算結果を用いて前記購入対象の構成要素に適用される少なくとも1つの単価を前記単価記憶部から読み出すステップと、をさらに実行させる前記プログラムを記録した付記12記載のコンピュータ読取可能な記録媒体。

(付記14) 前記商品は、前記構成要素としてのデータの集合体であり、前記データの集合体をデータ記憶部に記憶するステップと、記憶されたデータの集合体を用いて前記購入対象の構成要素の情報に対応するデータを含む納品ファイルを作成するステップと、作成された納品ファイルを前記購入者に納品するステップと、をさらに実行させる前記プログラムを記録した付記12又は13記載のコンピュータ読取可能な記録媒体。

(付記15) 前記納品ファイルを作成するステップが、前記購入者に過去に購入されたデータをさらに含む納品ファイルを作成する、前記プログラムを記録した付記14記載のコンピュータ読取可能な記録媒体。

(付記16) 購入者がネットワークを通じて商品を購入するための処理をコンピュータに実行させるプログラムを記録した記録媒体であって、前記商品は、内容が相互に異なり単独で販売される複数種類の構成要素からなり、コンピュータに、単数又は複数の購入対象の構成要素の情報を販売者に送信するステップと、前記購入対象の構成要素の種類数に基づいて決定された少なくとも1つの構成要素の単価とその適用範囲とを用いて算出された当該購入対象の構成要素の価格を受信するステップと、受信された価格を表示装置に表示するステップと、を実行させるプログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体。

(付記17) 前記購入対象の構成要素の種類数と前記購入者が過去に購入した構成要素の種類数との加算結果に基づいて決定された少なくとも1つの構成要素の単価とその適用範囲とを用いて算出された当該購入対象の構成要素の価格を受信するステップ、をさらに実行させる前記プログラムを記録した付記16記載のコンピュータ読取可能な記録媒体。

(付記18) 前記商品は、前記構成要素としてのデータの集合体であり、前記購

入対象の構成要素の情報に対応するデータを含む納品ファイルを受信するステップ、をさらに実行させる前記プログラムを記録した付記 16 又は 17 記載のコンピュータ読取可能な記録媒体。

(付記 19) 前記購入者に過去に購入されたデータをさらに含む納品ファイルを受信するステップ、をさらに実行させる前記プログラムを記録した付記 18 記載のコンピュータ読取可能な記録媒体。

(付記 20) ネットワークを通じて商品を販売するシステムであって、購入者による商品の購入実績を記憶する購入実績記憶部と、購入者から受信した購入対象の商品の購入価格を前記記憶部に記憶されている該購入者の購入実績に基づいて算出する算出部と、を備えた商品販売システム。

(付記 21) 前記算出部は、購入実績の商品の数量と前記購入対象の商品の数量とに基づき、該購入対象の商品の購入価格を算出する、付記 20 記載の商品番倍システム。

(付記 22) 商品の数量に乗じた複数種類の商品の単価と各単価の適用範囲とを記憶した単価記憶部をさらに備え、前記算出部は、前記購入実績の商品の数量と前記購入対象である商品の数量との和に基づき、当該購入対象の商品が属する適用範囲とその数量とを求めて当該購入対象の商品の購入価格を算出する付記 21 記載の商品販売システム。

(付記 23) ネットワークを通じて商品を購入するシステムであって、購入者により指定される購入対象の商品の情報を販売者に送信する送信部と、前記購入者の過去の購入実績に基づき決定された前記購入対象の商品の購入価格を受信する受信部と、前記受信された価格を表示装置に表示する表示制御部と、を備えた商品購入システム。

(付記 24) クライアントと、前記クライアントとネットワークを通じて接続されるサーバとを備えた商品の販売システムであって、前記クライアントは、購入者により指定される購入対象の商品の情報を前記サーバに送信する送信部と、前記サーバから前記購入対象の商品の購入価格を受信する受信部と、前記受信された価格を表示装置に表示する表示制御部と、を含み、前記サーバは、購入者による商品の購入実績を記憶する購入実績記憶部と、前記クライアントから受信した



前記購入対象の商品の購入価格を前記購入実績記憶部に記憶されている該購入者の購入実績に基づいて算出するステップと、を含む商品販売システム。

（付記 2 5）ネットワークを通じて商品を販売する処理をコンピュータに実行させるためのプログラムを記憶した記録媒体であって、コンピュータに、商品の購入者を識別するステップと、前記購入者による商品の購入実績を取得するステップと、前記購入者から受信した購入対象の商品の購入価格を前記購入実績に基づいて算出するステップと、を実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体。

（付記 2 6）ネットワークを通じて商品を販売する方法であって、商品の購入者を識別し、前記購入者による商品の購入実績を取得し、前記購入者から受信した購入対象の商品の購入価格を前記購入実績に基づいて算出する商品販売方法。

【 0 1 4 5 】

【発明の効果】

本発明によれば、購入者が購入し易い価格で商品を提供することができる商品販売システムを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の商品販売システムの概要図

【図 2】 図 1 に示した端末装置のブロック図

【図 3】 図 1 に示した販売サーバのブロック図

【図 4】 購入者情報テーブルの説明図

【図 5】 購入履歴テーブルの説明図

【図 6】 通減価格テーブルの説明図

【図 7】 商品データ購入履歴テーブルの説明図

【図 8】 識別コード保存テーブルの説明図

【図 9】 納品情報テーブルの説明図

【図 1 0】 商品情報テーブルの説明図

【図 1 1】 商品ファイルの例を示す図

【図 1 2】 購入者登録画面の表示例を示す図

【図 1 3】 ログイン画面の表示例を示す図

- 【図 1 4】 商品選択画面の表示例を示す図
- 【図 1 5】 商品データ選択画面の表示例を示す図
- 【図 1 6】 見積画面の表示例を示す図
- 【図 1 7】 購入の概要を示すフローチャート
- 【図 1 8】 購入者登録の詳細を示すシーケンス図
- 【図 1 9】 ログインから見積提示までの詳細を示すシーケンス図
- 【図 2 0】 支払から納品までの詳細を示すシーケンス図
- 【図 2 1】 第 2 実施形態における購入履歴テーブルの説明図
- 【図 2 2】 第 2 実施形態における低減価格テーブルの説明図
- 【図 2 3】 第 2 実施形態における商品データ購入履歴テーブルの説明図
- 【図 2 4】 第 2 実施形態における識別コード保存テーブルの説明図
- 【図 2 5】 第 2 実施形態における納品情報テーブルの説明図
- 【図 2 6】 第 2 実施形態における商品情報テーブルの説明図
- 【図 2 7】 書籍商品ファイルを示す図
- 【図 2 8】 書籍商品ファイルの他の例を示す図
- 【図 2 9】 納品画面の説明図
- 【図 3 0】 納品情報テーブルの説明図

【符号の説明】

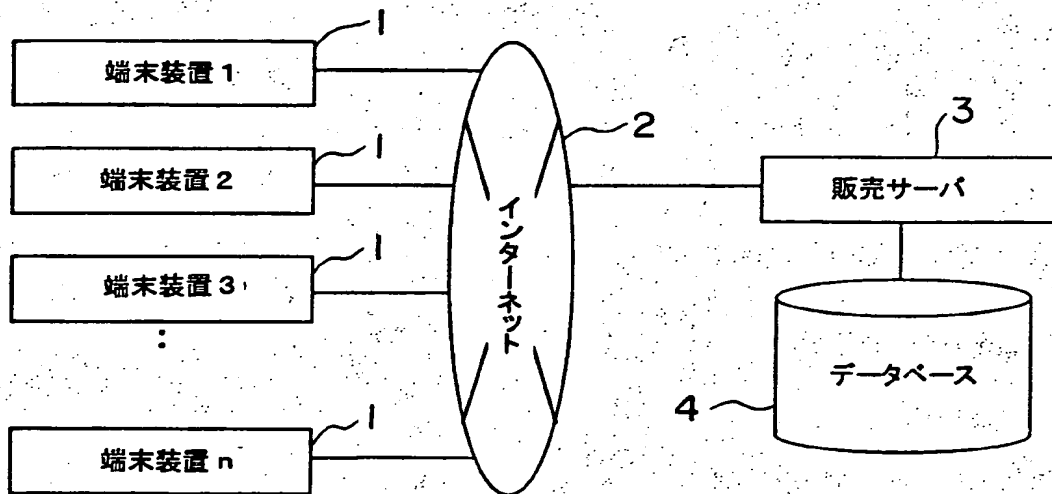
- 1 端末装置(購入端末)
- 2 ネットワーク
- 3 販売サーバ
- 4 データベース
- 5, 1 1 操作部
- 6, 1 2 表示部
- 7, 2 7 C P U
- 8 画面制御部
- 9, 3 2 回線接続部
- 1 0, 2 6 メモリ
- 1 4 購入者情報テーブル

- 1 5 購入履歴テーブル
- 1 6 通減価格テーブル
- 1 7 商品データ購入履歴テーブル
- 1 8 納品情報テーブル
- 1 9 商品情報テーブル
- 2 0 識別コード保存テーブル
- 2 1 補助記憶装置
- 2 2 ~ 2 5 格納領域
- 2 5 A, 2 5 B 商品ファイル
- 2 8 購入者情報処理部
- 2 9 ログイン部
- 3 0 画面作成部
- 3 1 価格計算部
- 3 3 納品ファイル作成部
- 3 4 支払確認部
- 3 5 納品部
- 3 6 購入者登録画面
- 3 7 ログイン画面
- 3 8 商品選択画面
- 3 9 商品データ選択画面
- 4 0 見積画面

【書類名】 図面

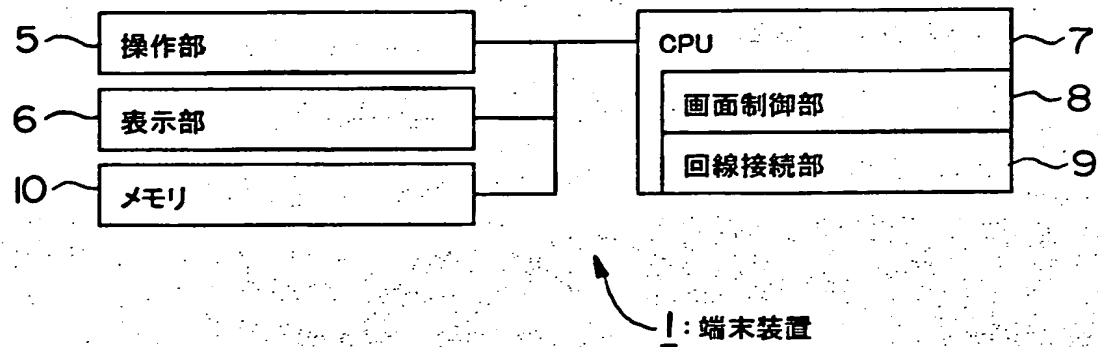
【図 1】

本発明の商品販売システムの概要図



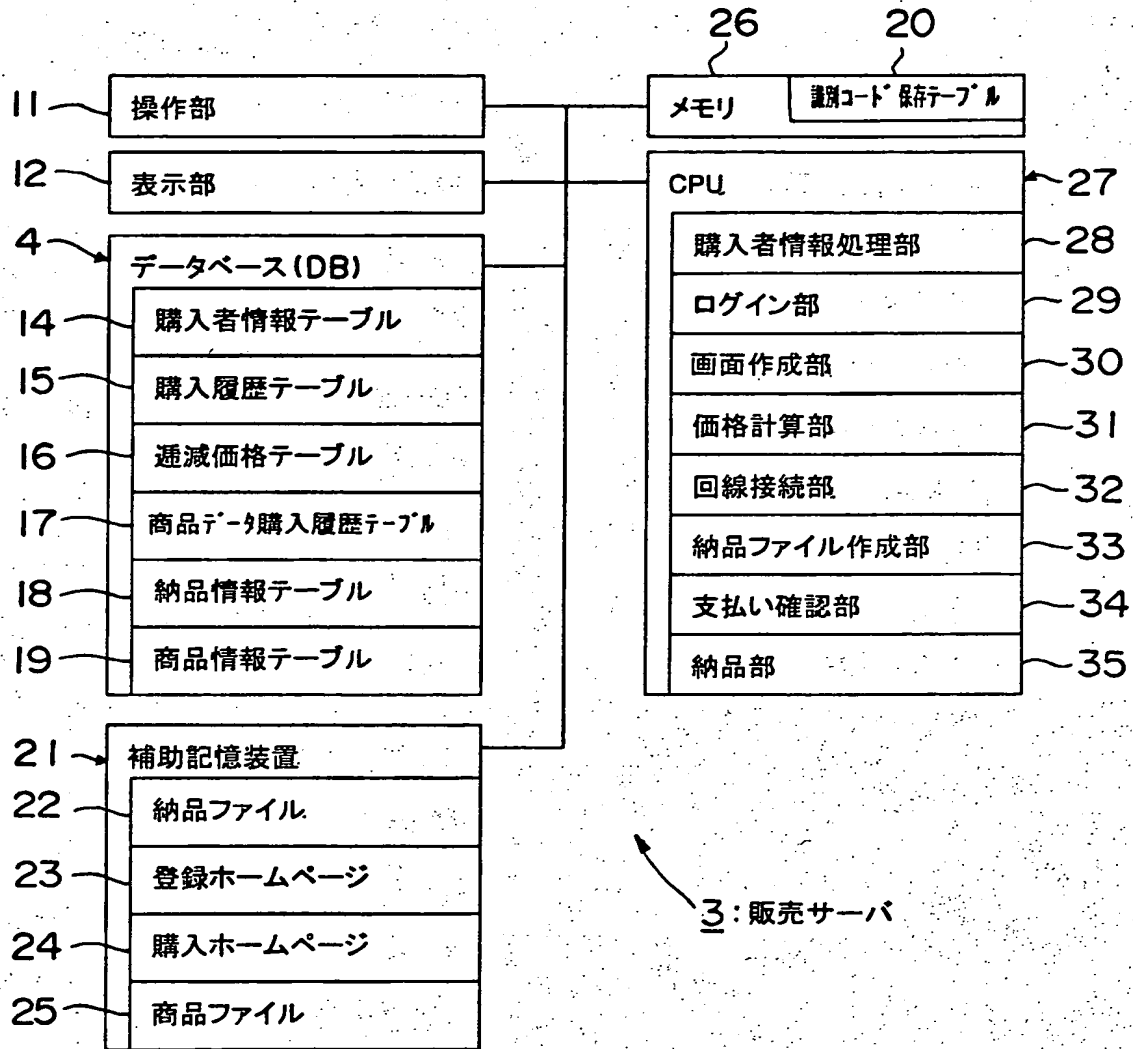
【図 2】

図 1 に示した端末装置のブロック図



【図 3】

図 1 に示した販売サーバのブロック図



【図 4】

購入者情報テーブル

14

購入者名	パスワード	E-mail	電話番号	郵便番号	住所
A商事	14fxs5	aaa@a.co.jp	012-345-6789	211-0000	川崎市中原区
Bシステム㈱	1asd22	bbb@b.co.jp	123-456-7890	206-0000	東京都稲城市

【図 5】

購入履歴テーブル

15

購入者名	商品名	購入実績
A商事	明朝体	150 文字
Bシステム㈱	明朝体	50 文字
Bシステム㈱	ゴシック体	100 文字



【図 6】

16

逓減価格テーブル

適用開始	適用終了	単価
1 文字	100 文字	1,000 円
101 文字	200 文字	700 円
201 文字	300 文字	500 円
301 文字	上限なし	100 円

【図 7】

商品データ購入履歴テーブル

17  
)

購入者名	A商事
商品名	明朝体
識別コード	購入フラグ
101	未
102	未
:	:
01601	済
01602	済
:	:
65493	未
65494	未

【図 8】

20

識別コード保存テーブル

購入者名	A商事
商品名	明朝体
選択された識別 コード	1610
	1640
	:

【図 9】

納品情報テーブル

18

購入者名	商品名	ファイル名	購入価格	支払いフラグ
A商事	明朝体	adsd1.ttf	60000 円	済
Bシステム㈱	ゴシック体	12g2fr.ttf		未

【図 1 0】

商品情報テーブル

19

商品名	ファイル名
明朝体	min.ttf
ゴシック体	go.ttf

【図 1 1】

商品ファイルの例を示す図

(A)

識別 コード	商品 データ
101	
102	、
：	：
458	へ
459	ほ
：	：
1601	亜
1602	啞
：	：
11703	寸
11705	瀬
：	：
27675	跌
27676	跛

25A

商品ファイル(明朝体の場合)

(B)

識別 コード	商品 データ
101	
102	、
：	：
458	へ
459	ほ
：	：
1601	亜
1602	啞
：	：
11703	寸
11705	瀬
：	：
27675	跌
27676	跛

25B

商品ファイル(ゴシック体の場合)

【図 12】

購入者登録画面

36

購入者登録	
購入者名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
パスワード	<input type="password"/> (もう一度入力して下さい)
E-mail	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>
電話番号(7桁)	<input type="text"/>
住所1	<input type="text"/>
住所2	<input type="text"/>
<input type="button" value="購入者登録"/>	

41

【図 13】

ログイン画面

ログイン  
購入者名   
パスワード

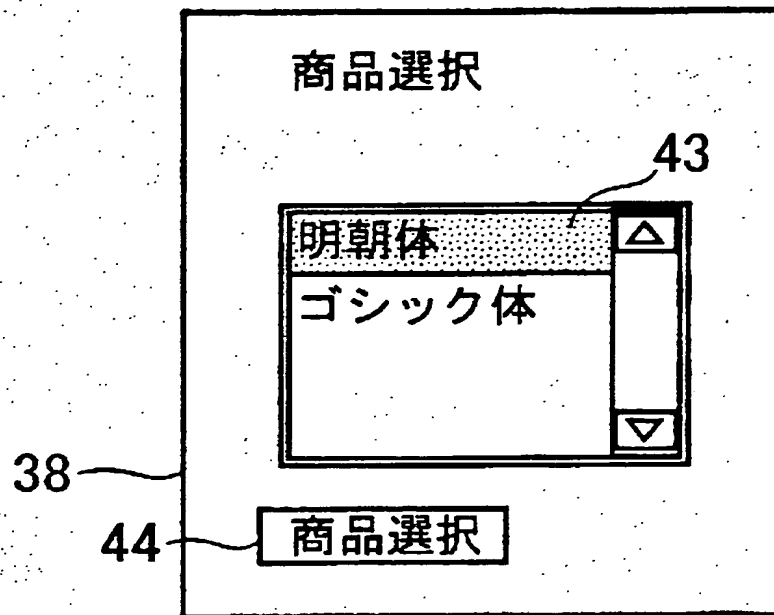
37

42



【図 14】

商品選択画面



【図 15】

39

商品データ選択画面

45

商品データ選択

—	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1600	亜	啞	娃	阿	哀	愛	埃	始	逢	葵
1610	茜	穉	惡	握	渥	旭	葦	芦	鯨	梓
1620	圧	幹	扱	宛	姐	虻	絢	鮎	或	粟
1630	裕	安	庵	按	案	闇	鞍	杏	以	伊
1640	位	依	偉	圀	夷	委	威	尉	惟	意

【文字購入】 識別コード  選択 見積

46 47 48

【図16】

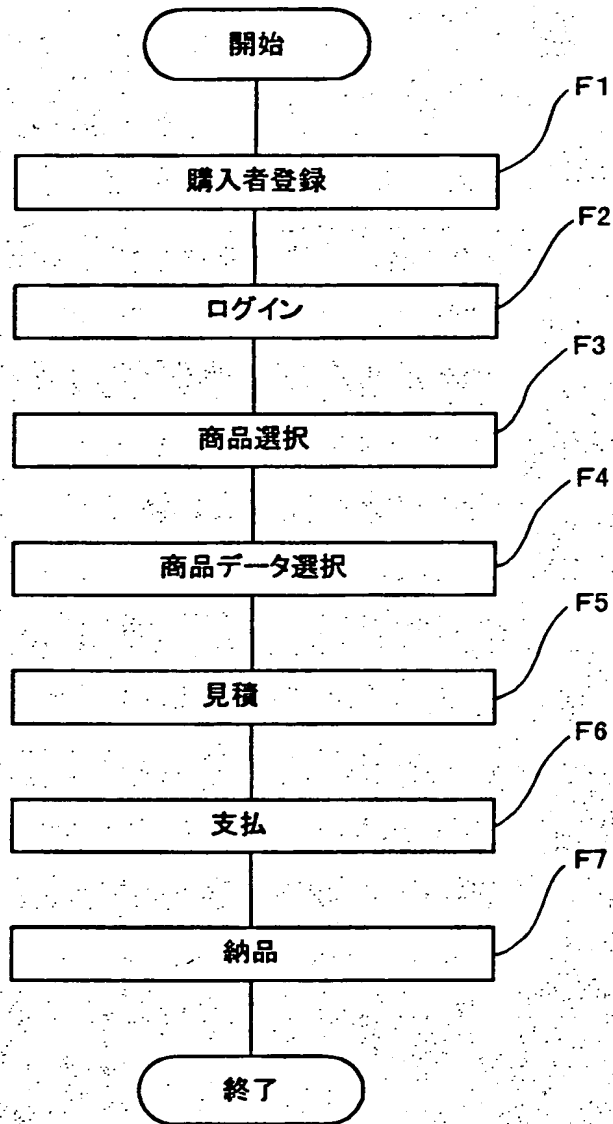
## 見積画面

40

見積		
商品名	明朝体	
前回までの購入実績	150文字	
今回の購入	100文字	
明細	700円×50文字	35,000円
	500円×50文字	25,000円
	合計	60,000円

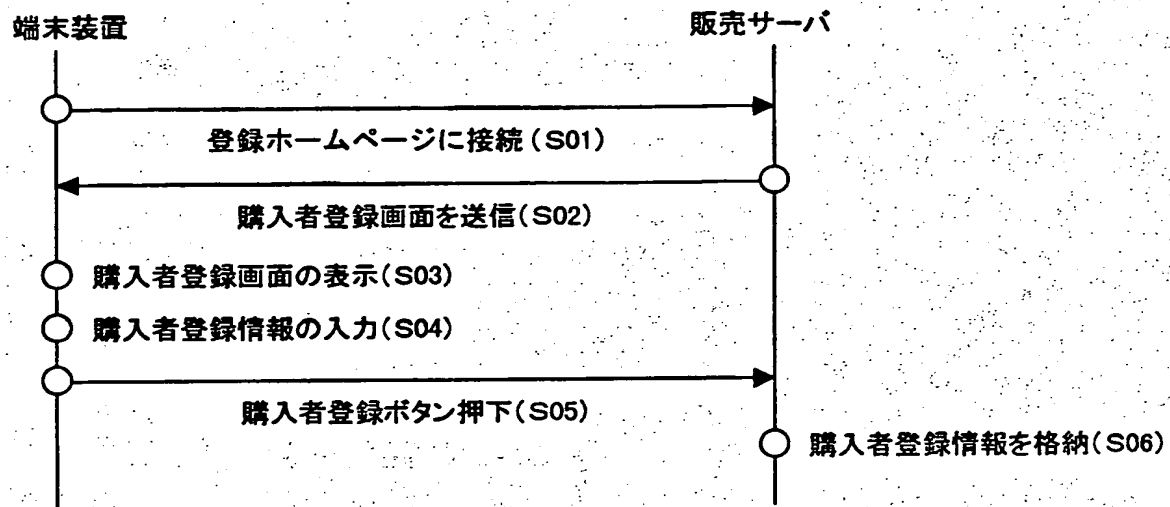
【図 17】

購入の概要を示すフローチャート



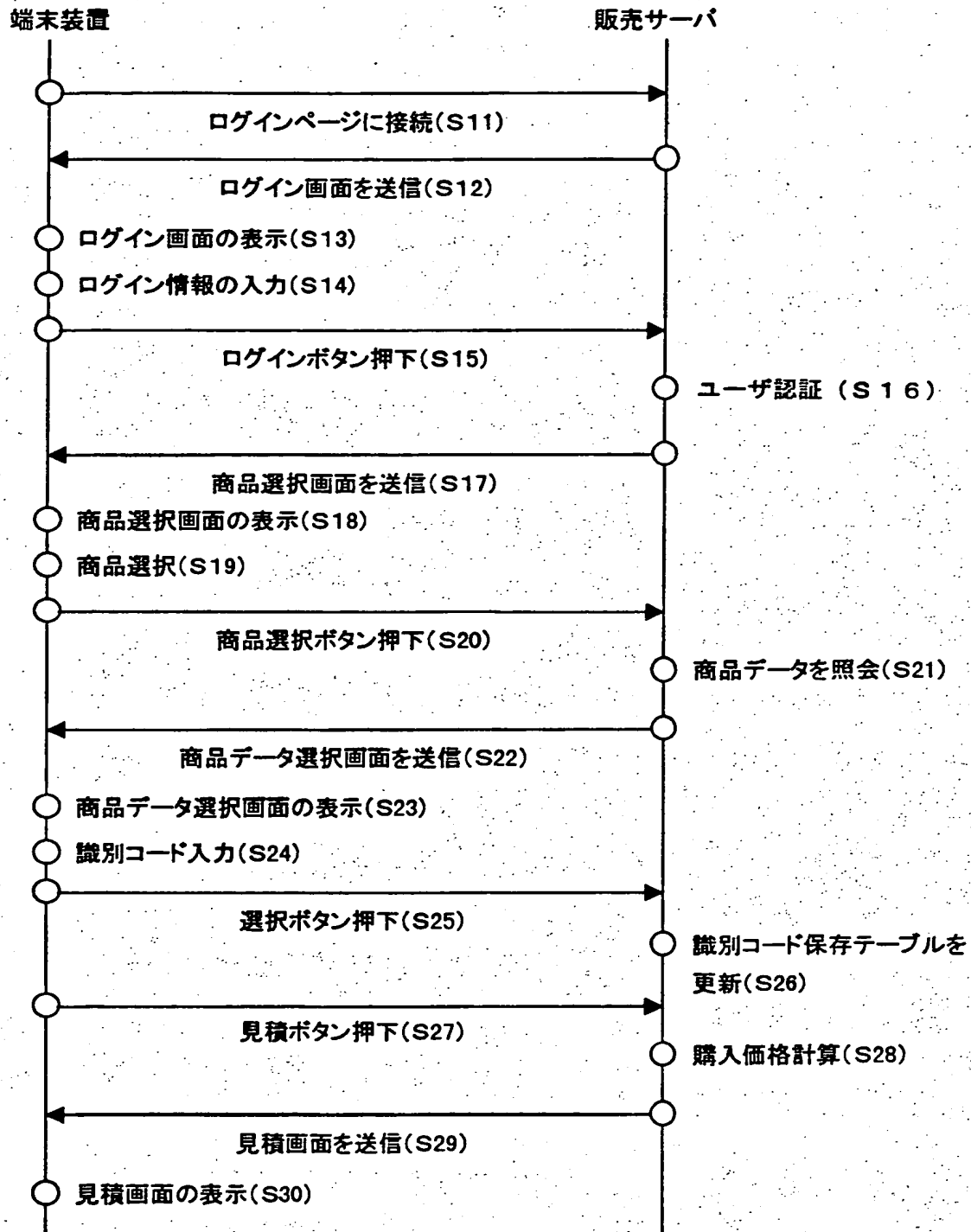
【図 1 8】

購入者登録の詳細を示すシーケンス図



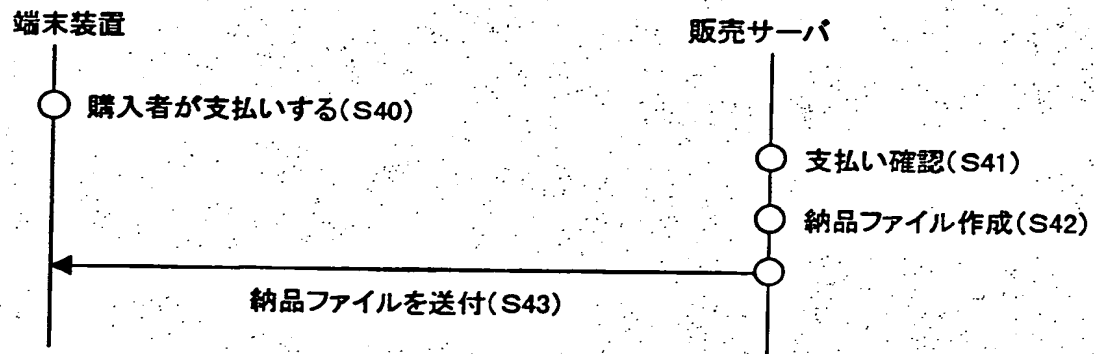
【図 1 9】

ログインから見積提示までの詳細を示すシーケンス図



【図 2 0】

支払から納品までの詳細を示すシーケンス図



【図 2 1】

購入履歴テーブル

15A

購入者名	商品名	購入実績
A商事	半導体ブック〇〇号	20 章
Bシステム㈱	〇△リファレンス	5 章
Bシステム㈱	×□リファレンス	100 章



【図 2 2】

通減価格テーブル

16A

適用開始	適用終了	単価
1 章	100 章	100 円
101 章	200 章	90 円
201 章	300 章	80 円
301 章	上限なし	50 円

【図 2 3】

商品データ購入履歴テーブル

購入者名	A 商事
商品名	半導体ブック〇〇号
識別コード	購入フラグ
1 章	未
2 章	未
:	:
100 章	済
101 章	済
:	:
500 章	未

〜17A

【図 2 4】

識別コード保存テーブル

購入者名	A商事	20A
商品名	半導体ブック〇〇号	
選択した識別コード	1 章	
	34 章	
	:	

【図 25】

納品情報テーブル

18A

購入者名	商品名	ファイル名	価格	支払いフラグ
A商事	半導体ブック〇〇号	a_hbxxx.xml		済
Bシステム㈱	〇△リファレンス	b_xxxref.xml		未

【図 2 6】

商品情報テーブル

19A

商品名	ファイル名
半導体ブック〇〇号	hbxxx.xml
〇△リファレンス	xxxref.xml

【図 2 7】

書籍商品ファイルを示す図

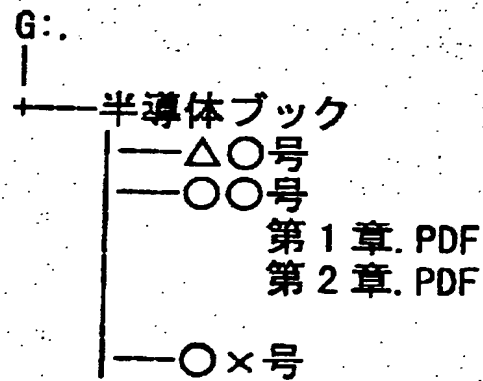
```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE 半導体ブック〇〇号 SYSTEM "半導体ブック.dtd">
<規格票>
  <半導体データ>
    <章>1</章>
    <品名>MBX123456</品名>
    <概要>
      MBX123456 は, 高速 CMOS 技術を使用した〇〇です.
    </概要>
    <特徴>
      <分解能>8bit</分解能>
      <最大変換レート>16MSPS(最小)</最大変換レート>
      <電源電圧 アナログ部>+3.0[V]</電源電圧 アナログ部>
      <電源電圧 デジタル部>+3.0[V]</電源電圧 デジタル部>
    </特徴>
  </半導体データ>
  :
  <半導体データ>
    <章>10</章>
    <品名>MBZ789465</品名>
    <概要>
      MBZ789465 は, 高速な汎用コントローラです.
    </概要>
    <特徴>
      <動作周波数 内部バス>60MHz</動作周波数 内部バス>
      <動作周波数 外部バス>30MHz</動作周波数 外部バス>
      <電源>5.0V±10%</電源>
      <内部電圧>3.3V±0.165V</内部電圧>
    </特徴>
  </半導体データ>
  :
</規格票>

```

【図 2 8】

書籍商品ファイルの他の例を示す図



【図 2 9】

納品画面

50

納品

A 商事様

商品名	納品場所
明朝体	ファイル名は「adsd1.ttf」です



【図 30】

納品情報テーブル

購入者名	商品名	ファイル名	購入価格	支払い状況	納品データ (バイナリ)
A 商事	明朝体	adsl1.ttf	60,000 円	済	adsl1.ttf のファイル内容
B システム ㈱	ゴシック体	12g2fr.ttf		未	12g2fr.ttf のファイル内容

52

51

【書類名】要約書

【要約】

【課題】購入者が購入し易い価格で商品を提供することができる商品販売システムを提供する。

【解決手段】購入者が希望する外字フォントをネットワークを通じて販売するシステムであって、外字フォントの種類数に応じた複数種類の外字フォントの単価と各単価の適用範囲とを記憶した通減価格テーブルと、購入者から受信した1以上の外字フォントの識別コードに基づいて当該購入対象の外字フォントの種類数を検出し、検出した外字フォントの種類数に基づいて購入対象の外字フォントに適用される1以上の単価を通減価格テーブルから読み出し、読み出した1以上の単価の適用範囲に属する外字フォントの数を算出し、読み出した単価と算出した外字フォントの数とを用いて購入価格を算出する価格計算部とを備える。

【選択図】図3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005223]

1. 変更年月日	1996年 3月26日
[変更理由]	住所変更
住 所	神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号
氏 名	富士通株式会社